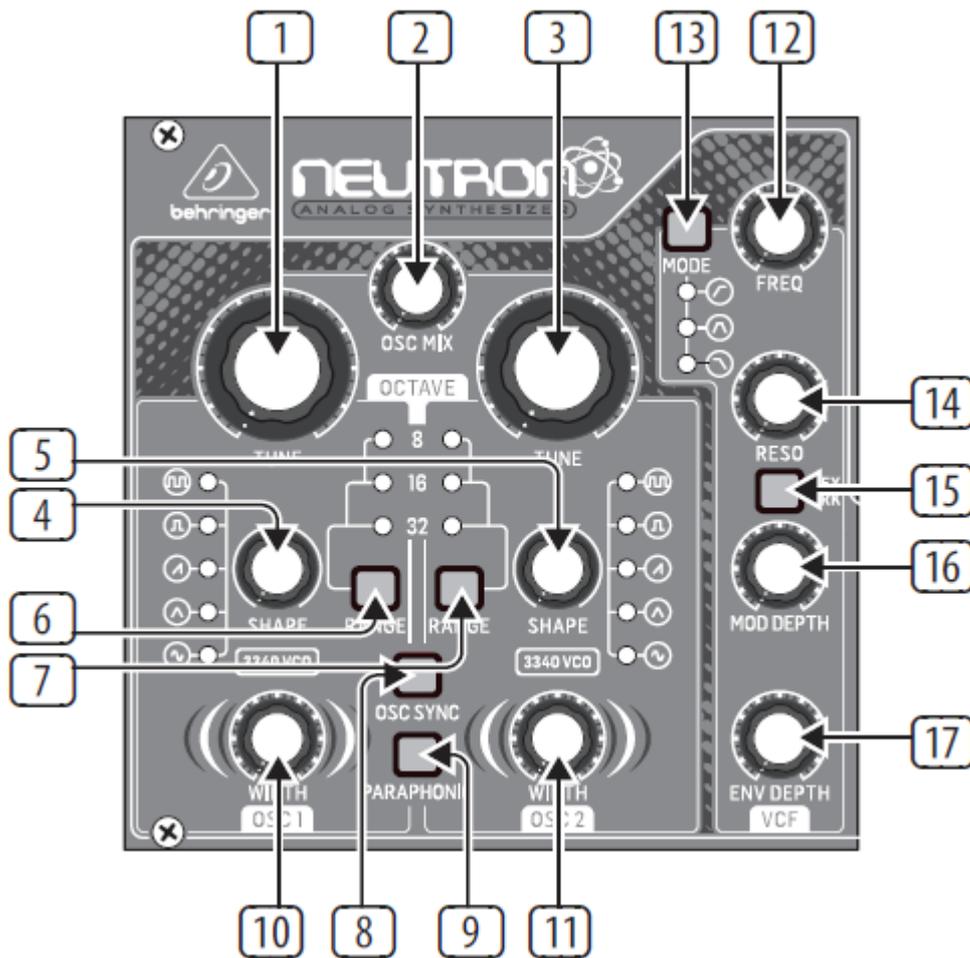


BEHRINGER/NEUTRON

基本コントロールマニュアル

・基本コントロールについて

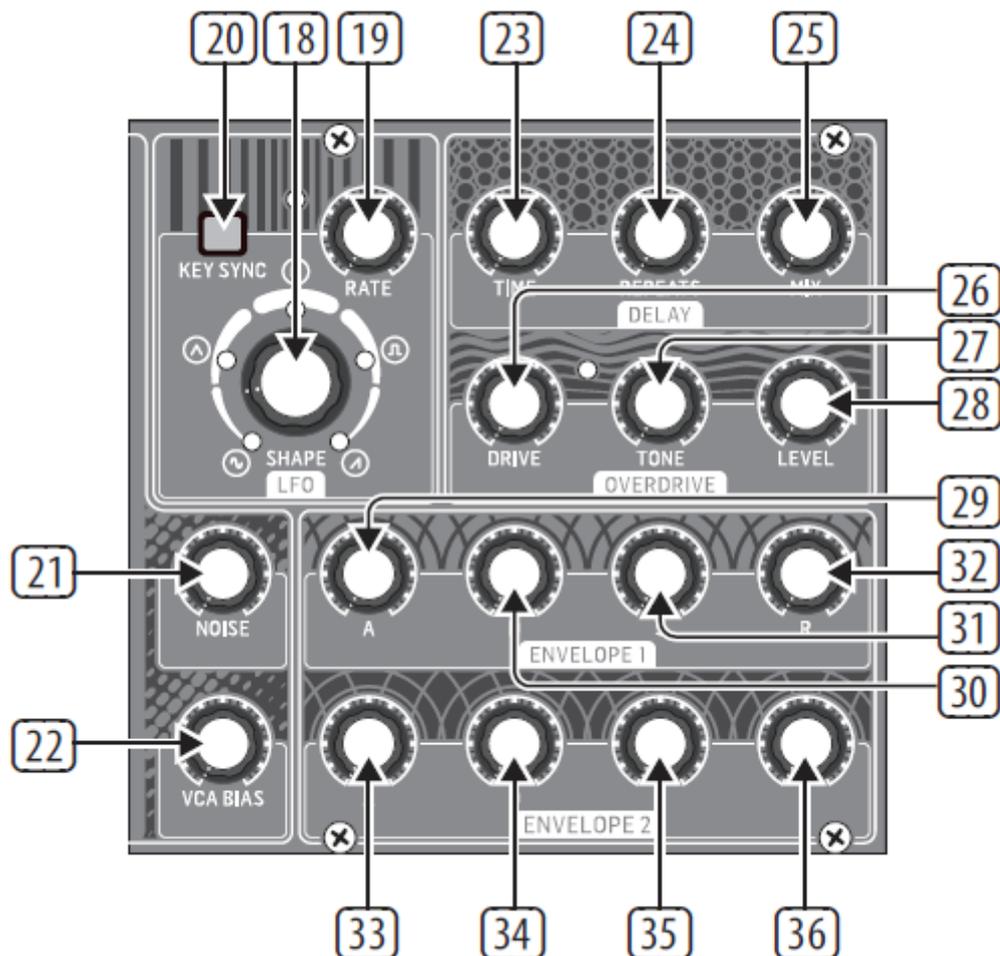


OSC セクション

- ① OSC1 の周波数を調整します。
- ② OSC1 と 2 のブレンド率を調整します
- ③ OSC2 の周波数を調整します。
- ④⑤OSC1/2 それぞれの波形を選択します。特定の波形を選択する、または隣り合う波形同士のブレンドが可能です。選択できる波形はサイン波、三角波、ノコギリ波、パルス波、トーンモジュレーションとなります。
- ⑥⑦OSC1/2 それぞれのオクターブレンジを選択します。32/16/8 が選択できます。数字が小さいほど高い音が出ます。LED が 3 つ点灯している時は、 ± 10 オクターブの設定となります。
- ⑧ OSC2 を OSC1 にシンクさせます。
- ⑨ 2 つ以上の MIDI ノートを受けた際、二つのオシレーターがそれぞれ独立して別のピッチを再生します。
- ⑩⑪ OSC1/2 でパルス波またはトーンモジュレーションの波形が選択されているときに、パルス幅を調整します。

VCF セクション

- ⑫ VCF のカットオフ周波数を調整します。
- ⑬ 適用するフィルターのタイプを選択します。上からハイパスフィルター、バンドパスフィルター、ローパスフィルターとなっています。
- ⑭ FERQ で設定した周波数に対するレゾナンスを調整します。カットオフ周波数付近の音域を強調したり、倍音を付加する効果があります。
- ⑮ MIDI ノートに対して VCF が追従するかどうかを設定します。ON のときは MIDI ノートに対し、フィルターが追従します。
- ⑯ フィルターに対するモジュレーションの深さを設定します。何もパッチングをしていない場合には、LFO がモジュレーションソースとしてアサインされています。
- ⑰ ENVELOPE2 からフィルターに適用するエンベロープの深さを調整します。



LFO セクション

- ⑱ LFO のシェイプを選択します。特定の波形を選択する、または隣り合う波形同士のブレンドが可能です。選択できる波形はサイン波、三角波、ノコギリ波、パルス波、逆ノコギリ波となります。
- ⑲ LFO の周波数を調整します。
- ⑳ MIDI ノートに対して LFO が追従するかどうかを設定します。ON のときは MIDI ノートに対し、フィルターが追従します。

NOISE/VCA BIAS セクション

- ㉑ フィルターに付加するホワイトノイズ量を調整します。
- ㉒ VCA の開く量を調整します。ツマミを回していくごとに VCA が開いていきます。VCA が開いている状態の場合、音は止まらずそのまま出力され続けます。

DELAY セクション

- ㉓ Delay Time を調整します。
- ㉔ Delay のリピート回数を調整します。最大値付近まで上げると NEUTRON が自己発振します。
- ㉕ NEUTRON の原音と Delay (エフェクト) 音のブレンド量を調整します。12 時の方向で原音とエフェクト音が 1:1 の比率となります。最大値まで回すとエフェクト音のみ聞こえる Kill Dry の状態になります。

OVERDRIVE セクション

- ㉖ オーバードライブの歪み量を調整します。
- ㉗ オーバードライブのトーンを調整します。右に回すほど高音が強調された明るい音色になります。
- ㉘ オーバードライブからの出力量を調整します。左に回しきった状態にすると、オーディオ信号が出力されなくなります。

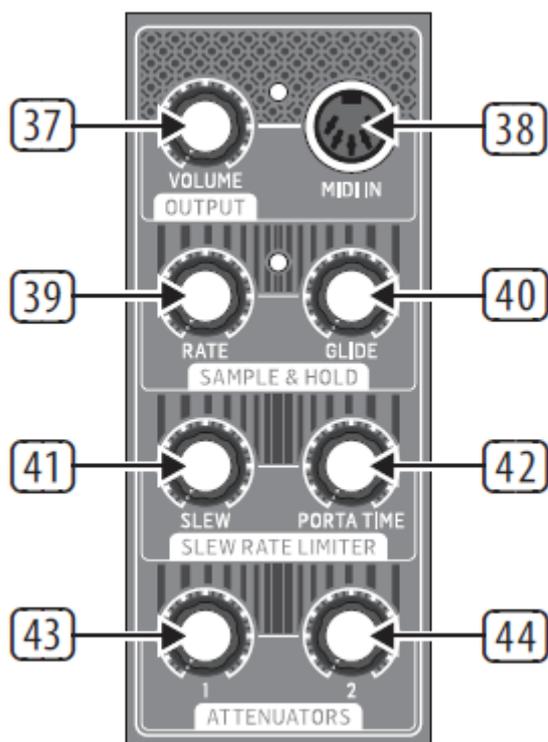
ENVELOPE セクション

・ ENV1 (デフォルトでは VCA の CV にルーティングされています。)

- ㉙ ENV1 の ATTACK タイムを調整します。右に回せば回すほど ATTACK タイムが遅くなり、最大音量に達するまでの時間が遅くなります。
- ㉚ ENV1 の DECAY タイムを調整します。右に回せば回すほど DECAY タイムが遅くなり、最大音量から SUSTAIN で設定したレベルに達するまでの時間が長くなります。
- ㉛ ENV1 の SUSTAIN レベルを調整します。右に回せば回すほど DECAY タイム経過後の音量 (鍵盤を押している間の音量) が最大音量に近くなります。
- ㉜ ENV1 の RELEASE タイムを設定します。右に回せば回すほど RELEASE タイムが長くなり、鍵盤を離れた (演奏終了) 後、音が鳴り終わるまでの時間が長くなります。

・ ENV2 (デフォルトでは VCF の ENV DEPTH にルーティングされています。)

- ㉝ ENV2 の ATTACK タイムを調整します。右に回せば回すほど ATTACK タイムが遅くなり、フィルターが最大音量に達するまでの時間が遅くなります。
- ㉞ ENV2 の DECAY タイムを調整します。右に回せば回すほど DECAY タイムが遅くなり、フィルターの音量が最大音量から SUSTAIN で設定したレベルに達するまでの時間が長くなります。
- ㉟ ENV2 の SUSTAIN レベルを調整します。右に回せば回すほど DECAY タイム経過後のフィルター音量 (鍵盤を押している間のフィルター音量) が最大音量に近くなります。
- ㊱ ENV2 の RELEASE タイムを設定します。右に回せば回すほど RELEASE タイムが長くなり、鍵盤を離れた (演奏終了) 後、フィルターが鳴り終わるまでの時間が長くなります。



OUTPUT セクション

- ③⑦ メイン出力の音量を調整します。（ヘッドホンアウトには適用されません。）
- ③⑧ MIDI 入力端子です。MIDI キーボードなど接続します。

SAMPLE&HOLD セクション

・入力信号をサンプリングし、ランダムなステップ状の波形を作成する機能です。（デフォルトでは入力信号に NOISE が選択されています。）

- ③⑨ クロックのサンプリングレートを調整します。
- ④⑩ サンプリング間の変化率を制限します。右に回すほどサンプリング波形のステップ間移動がスムーズになります。

SLEW RATE LIMITER セクション

- ④① 入力した信号の変化を遅らせる機能です。右に回せば回すほど入力信号の変化が滑らかになります。
- ④② 演奏している MIDI ノートから別の MIDI ノートへの変化を遅らせる機能です。右に回すほど、2つの MIDI ノート間での信号の変化が滑らかになります。ピッチのスライドサウンドとして利用できます。

ATTENUATOR セクション

- ④ ATT1 にアサインされた信号の大きさを調整します。デフォルトでは ATT2 の信号がルーティングされています。
- ④ ATT2 にアサインされた信号の大きさを調整します。デフォルトでは LFO の信号がルーティングされており、ATT2 からの出力信号は OSC1/2 の PULSE Width と ATT1 にルーティングされています。

・設定について

Advanced Features	Access	Action	Result	Exit
ASSIGN OUTへのアサイン	OSC SYNCボタン長押し	RANGEボタンを押して切り替え	LFO ShapeのLEDでアサインを確認できます。※1	OSC SYNCボタン長押し
ENVELOPEリトリガー	OSC SYNCボタン長押し	KEY TRKボタンを押して切り替え	KEY TRK LEDが光っている場合はリトリガーON	OSC SYNCボタン長押し
OSC1 Shape(Blend/Switch)	RANGE1ボタン長押し	PARAPHONICボタンを押して切り替え	PARAPHONICボタンが点灯/消灯を繰り返し替えている場合はSwitch mode、徐々に光ったり消えたりしている場合はBlend mode	RANGE1ボタン長押し
OSC2 Shape(Blend/Switch)	RANGE2ボタン長押し	PARAPHONICボタンを押して切り替え	PARAPHONICボタンが点灯/消灯を繰り返し替えている場合はSwitch mode、徐々に光ったり消えたりしている場合はBlend mode	RANGE2ボタン長押し
LFO Shape(Blend/Switch)	LFO KEY SYNCボタン長押し	PARAPHONICボタンを押して切り替え	PARAPHONICボタンが点灯/消灯を繰り返し替えている場合はSwitch mode、徐々に光ったり消えたりしている場合はBlend mode	LFO KEY SYNCボタン長押し
OSC1 Tuning	RANGE1ボタン長押し	下記Tuningの説明を参照	下記Tuningの説明を参照	RANGE1ボタン長押し
OSC2 Tuning	RANGE2ボタン長押し	下記Tuningの説明を参照	下記Tuningの説明を参照	RANGE2ボタン長押し
Poly Chain Mode	PARAPHONICボタン長押し	下記Poly Chain説明を参照	下記Poly Chain説明を参照	PARAPHONICボタン長押し

※1 LFO Shape の LED 表示は左の LED (サイン波) から、OSC1 CV/OSC2CV/ノートオンベロシティ/モジュレーションホイール/アフタータッチとなります。

・ OSC Tuning について

NEUTRONは電源投入時、自動的にキャリブレーションを行いますが、追加機能によりユーザー様ご自身で直前に演奏したMIDIノートにオシレーターを手動チューニングすることが出来ます。

OSC1またはOSC2をチューニングするには、それぞれのRANGEボタンをLEDが点滅するまで長押しします。MIDIノートを入力すると、LFOシェイプのLEDに現在のチューニングが表示されます。三角波LED（真ん中のLED）のみが点灯する状態になるまで、OSCのTUNEコントロールを回します。

チューニングモードを終了するには、オクターブLEDの点滅が停止するまで、RANGEボタンを長押しします。 +/-10オクターブモード時（オクターブLEDが3つ点灯）は、チューニングできません。

・ PolyChain について

NEUTRONを複数お持ちの場合は、それらをPolyChainで接続してポリフォニックサウンドを生成することができます。

最初のNEUTRONが2音分のMIDIノート（Duo Mode時）を再生すると、3音目以降のMIDIノートは1台目のNEUTRONでは再生されず、PolyChainされている次のNEUTRON送られます。

PolyChainを行う際、それぞれのNEUTRONはリアパネルのスイッチを使って同じMIDIチャンネルに設定する必要があります。

また、それぞれの本体でPolyChainがONになっている必要があります。

PolyChainの最後に接続されているNEUTRONは、MIDIノートをどのように扱うかによって、PolyChainのON/OFFを設定できます。

最後に接続されているNEUTRONのPolyChainがONのとき、PolyChain内で再生された最大MIDIノート数を超えたMIDIノートは鳴らされずに削除されます。

逆にPolyChainがOFFの場合、最大MIDIノート数を超えたMIDIノートは、最後のNEUTRONで再生されません。

PARAPHONICボタンを長押しすることで、PolyChainがONになります。

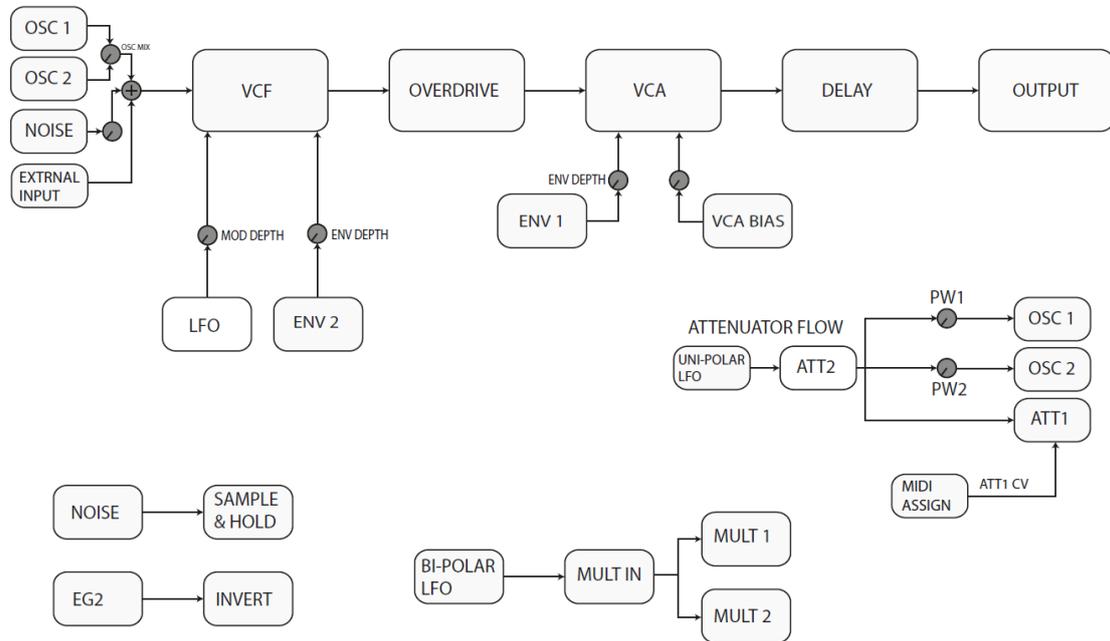
PolyChainがONの状態だと、PARAPHONICボタンのLEDが繰り返し点滅します（Monoモードのときは1回、Duoモードのときは2回）。

PARAPHONICボタンを短く押すと、MONO / DUOモードが切り替わります。

PolyChainをOFFにする場合は、PARAPHONICを再度長押しします。

NEUTRONを1つしか使用していない場合は、PolyChainがOFFであることを確認してください。

・ブロック図



MUSICトライブ・サービスJP株式会社

〒101-0032

東京都千代田区岩本町3-5-12 ユニゾ岩本町3丁目ビル南館7階

TEL : 03-5821-9781

MAIL : carecrea@musictribe.com